

平成18年度授業評価実施状況調査票

学部等名 大学教育・学生支援機構

1. 実施科目数 94科目 (学修原論)
[内訳] 前期 59科目, 後期 35科目
2. アンケート用紙回収枚数 1,869枚
[内訳] 前期 1,421枚, 後期 448枚
3. 実施組織 大学側: 大学教育・学生支援機構大学教育センター教育方法企画部会
学生側: なし

4. 実施方法

開講授業科目担当教員を通じて質問票を学生に配付、回収。
回収した質問票は、外部委託によりデータ集計。

5. アンケート結果に基づく授業改善等の取組み

集計結果は、部会員のみならず、大学教育センター運営委員会委員にも配付し、意見徴収。データ処理と分析を行い、結果を各教員へフィードバックする準備を進めている。
集計結果は「大学教育・学生支援機構報告書」にまとめ、学内全教員へ配付予定。以上のような取組を通じ、今後の授業改善等に活用する。

6. その他特記事項

7. 根拠資料(「アンケート用紙」,「集計結果」,「学生との話合いの記録」,「授業改善の取組み等の資料」等)

別添 開講状況、アンケート用紙(質問票)、集計結果

- (注) 1. 「6. その他特記事項」欄には、学生の意見がどのように反映されたかなどの事項を記載すること。
2. 「7. 根拠資料」は、本調査票と併せて提出(1部)願います。

平成18年度授業評価実施状況調査票

学部等名 大学教育・学生支援機構

1. 実施科目数 50科目(総合科目)
[内訳] 前期 23科目, 後期 27科目
2. アンケート用紙 2,874枚
回収枚数 [内訳] 前期 1,520枚, 後期 1,354枚
3. 実施組織 大学側: 大学教育・学生支援機構大学教育センター教育方法企画部会
学生側: なし
4. 実施方法

開講授業科目担当教員を通じて質問票を学生に配付、回収。
回収した質問票は、外部委託によりデータ集計。

5. アンケート結果に基づく授業改善等の取組み

集計結果は、部会員のみならず、大学教育センター運営委員会委員にも配付し、意見徴収。データ処理と分析を行い、結果を各教員へフィードバックする準備を進めている。

集計結果は「大学教育・学生支援機構報告書」にまとめ、学内全教員へ配付予定。以上のような取組を通じ、今後の授業改善等に活用する。

6. その他特記事項

7. 根拠資料(「アンケート用紙」,「集計結果」,「学生との話合いの記録」,「授業改善の取組み等の資料」等)

別添 開講状況、アンケート用紙(質問票)、集計結果(全体)

- (注) 1. 「6. その他特記事項」欄には、学生の意見がどのように反映されたかなどの事項を記載すること。
2. 「7. 根拠資料」は、本調査票と併せて提出(1部)願います。

平成18年度授業評価実施状況調査票

学部等名 大学教育・学生支援機構

1. 実施科目数 — 科目 (教養教育アンケート)
 [内訳] 前期 — 科目, 後期 — 科目
2. アンケート用紙 1, 058枚
 回収枚数 [内訳] 前期 — 枚, 後期 — 枚
3. 実施組織 大学側: 大学教育・学生支援機構大学教育センター教育方法企画部会
 学生側: なし

4. 実施方法

必修科目担当教員を通じて質問票を学生に配付、回収。
回収した質問票は、外部委託によりデータ集計。

5. アンケート結果に基づく授業改善等の取組み

集計結果は、部会員のみならず、大学教育センター運営委員会委員にも配付し、意見徴収。データ処理と分析を行い、結果を各教員へフィードバックする準備を進めている。
集計結果は「大学教育・学生支援機構報告書」にまとめ、学内全教員へ配付予定。以上のような取組を通じ、今後の授業改善等に活用する。

6. その他特記事項

7. 根拠資料(「アンケート用紙」,「集計結果」,「学生との話合いの記録」,「授業改善の取組み等の資料」等)

別添 アンケート回収状況、アンケート用紙(質問票)、集計結果

- (注) 1. 「6. その他特記事項」欄には、学生の意見がどのように反映されたかなどの事項を記載すること。
2. 「7. 根拠資料」は、本調査票と併せて提出(1部)願います。

平成18年度授業評価実施状況調査票

学部等名 社会情報学部

1. 実施科目数 244科目
[内訳] 前期 120科目, 後期 124科目
2. アンケート用紙 5,187枚
回収枚数 [内訳] 前期 2,671枚, 後期 2,516枚
3. 実施組織 大学側: 社会情報学部FD推進専門委員会

4. 実施方法

- (1) 各学期に開講されているすべての科目のアンケート用紙と回収用封筒を教員別に袋詰めしたものを総務係に用意し、各教員がそれを引き取る。
- (2) 教員は、最終授業の終了10分前にアンケート用紙を配布し、学生の中から回収責任者2名を指名して退室する(回収責任者には、封筒に貼付されているマニュアル通りに回収作業を行うよう指示する)。
- (3) 回収責任者は、アンケート用紙を回収した後、封筒に入れ、事務室に提出する。

5. アンケート結果に基づく授業改善等の取組み

FD推進専門委員会から各教員に、アンケート内容をよく吟味し、各科目の第1回授業の際に、「前年度の授業評価の結果を踏まえて、本年度はどの部分をどのように改善していくことになったのか」を伝えるよう依頼している。

6. その他特記事項

特になし。

7. 根拠資料(「アンケート用紙」,「集計結果」,「学生との話合いの記録」,「授業改善の取組み等の資料」等)
アンケート用紙

- (注) 1. 「6. その他特記事項」欄には、学生の意見がどのように反映されたかなどの事項を記載すること。
2. 「7. 根拠資料」は、本調査票と併せて提出(1部)願います。

平成18年度授業評価実施状況調査票

学部等名 医学部医学科

1. 実施科目数 55科目 (2年:17、3年:20、4年:18)
[内訳] 前期 21科目, 後期 33科目 通年 1科目
2. アンケート用紙 164枚 (通年での実施)
回収枚数 [内訳] 前期 枚, 後期 枚
3. 実施組織 大学側: 医学科教務部会 (学務課医学科教務係)
学生側: 学友会授業向上委員会
4. 実施方法
医学科の学生自治組織である学友会の授業向上委員会において、該当(各学年)学生に配布し回収したものを学務課にて受領、集計した。
5. アンケート結果に基づく授業改善等の取組み
本集計結果については、医学科教務部会に報告し例年実施しているFD(医学教育教授法ワークショップ)において公表し、今後の授業内容等の向上の参考に供する予定である。
なお、高評価の教員についてはベストティーチャー石井賞として医学科独自の表彰を実施しており、もう少し授業内容を改善して欲しいとの意見が出された教員については、個別の当該評価結果をフィードバックしている。
6. その他特記事項
上記の記載のとおり、学生の意見は医学科教務部会を通じて各教員等に周知し、授業改善の一助として供している。
7. 根拠資料(「アンケート用紙」、「集計結果」、「学生との話合いの記録」、「授業改善の取組み等の資料」等)
資料1: アンケート用紙
資料2: アンケート集計結果
資料3: 学友会との懇談会資料(2回実施)
資料4: 平成18年度医学教育教授法ワークショップ資料

(注) 1. 「6. その他特記事項」欄には、学生の意見がどのように反映されたかなどの事項を記載すること。
2. 「7. 根拠資料」は、本調査票と併せて提出(1部)願います。

平成18年度授業評価実施状況調査票

学部等名 医学部（保健学科）

1. 実施科目数

228科目

[内訳] 前期 123科目, 後期 105科目

2. アンケート用紙

6,054枚

回収枚数

[内訳] 前期 3,686枚, 後期 2,368枚

3. 実施組織

大学側：教育課程専門委員会、大学評価室委員（保健学科）

学生側：学友会（学生代表）、当該授業科目受講生

4. 実施方法

別紙アンケート用紙により前期・後期とも同程度の規模・方法で実施した。

5. アンケート結果に基づく授業改善等の取組み

授業評価の結果については、学期毎に集計を行い各担当教員に集計結果をフィードバックしており、授業改善に役立っている。

なお、平成18年度からベストティーチャー賞が導入されたことに伴い、今後は授業評価の内容も参考とするため、アンケート内容の一部変更を検討している。

6. その他特記事項

18年度の授業評価結果は、一部集計中のデータもあるため詳細な確認は行っていないが、一般的に見た限りでは、「やや劣る」又は「劣る」と評価された割合が多い科目の数が以前より減少したように思う。

ただし、毎年、教員の異動があることや対象者が毎年変わるので一概に比較はできない。

7. 根拠資料（「アンケート用紙」、「集計結果」、「学生との話合いの記録」、「授業改善の取組み等の資料」等）

別添のとおり

（注）1. 「6. その他特記事項」欄には、学生の意見がどのように反映されたかなどの事項を記載すること。

2. 「7. 根拠資料」は、本調査票と併せて提出（1部）願います。

平成18年度授業評価実施状況調査票

学部等名 工学部

1. 実施科目数 175 科目
[内訳] 前期 85 科目, 後期 90 科目
2. アンケート用紙 7,553 枚
回収枚数 [内訳] 前期 4,039 枚, 後期 3,514 枚
3. 実施組織 大学側: 工学部評価委員会
学生側: 各学科授業改善ワーキンググループ

4. 実施方法

前期では、学科ごとに学部2,3年生数名を構成員とする授業改善ワーキンググループが中心となり、学生の主導のもとに、演習・実験科目すべてと専門科目のうち数科目を評価対象科目に選定し、授業評価アンケートを実施した。今年度の工学部評価委員会において、各学科の全教員がそれぞれの担当科目について年間を通して少なくとも一つは授業評価を受ける、ということが決まったことを受けて、後期には前期で授業評価を受けていない教員の担当科目についてワーキンググループが選定した科目に対する授業評価アンケートを実施した。

得られたアンケートの集計結果をもとに、学生から意見・要望があった点について、各学科の担当評価委員が中心となって対象教員へのフィードバック、改善計画の策定を行った。

また、後期には2週間程度の期間を定めて公開授業を実施し、授業方法について教員相互の理解と意見交換、自らの授業方法の改善への参考となる機会を設けた。その結果について、次年度のFDにつなげるべく教員からアンケートを集めることとした。

5. アンケート結果に基づく授業改善等の取組み

学科ごとに、担当評価委員、学科長、学科の教務委員などと授業評価ワーキンググループを中心とする学生との懇談会を開催し、アンケート結果に対する意見交換を行った。また、アンケート用紙のフォーマットについても意見交換を行った。指摘のあったポイントについては、各教員ごとにまとめたものを配布し、それへの適切な対応を要請し、総評と改善計画をまとめてもらった。

公開授業を行うことにより、学生から評価が高い授業とはどのようなものかについて実体験できるようにした。とりわけ、若手教員からは、今後の授業方法について大きな参考になるとの意見もあり、今後は公開授業と学生による授業評価アンケートをうまくリンクさせることが大切であることが指摘できる。この点は、教員にも学生にもいい意味での緊張感が生まれることとなるようである。

6. その他特記事項

- ・パワーポイントを使つての授業については、学生の評価はあまり高くなく、板書の方が理解のスピードとうまく合うという意見があり、この点を教員にも周知し、板書を併用することとした。
- ・黒板の使い方を整理し、わかりやすくして欲しいという意見があった。講義の教室の黒板を整備していくことも必要であることが指摘され、ノートテイクしやすいように板書するように指導した。
- ・講義の場合にも、必ず問題演習を時間内に併用してほしいという指摘が多く、教員に周知指導した。
- ・アンケートは自由記述にして欲しいという意見もあり、次年度に検討することとした。
- ・公開授業について、授業の概要などを事前に他の教員にも知らせ、教員の公開授業への参観に役立つようにした。

7. 根拠資料(「アンケート用紙」,「集計結果」,「学生との話合いの記録」,「授業改善の取組み等の資料」等)

平成18年度第3回群馬大学工学部評価委員会資料(前期)

平成18年度第6回群馬大学工学部評価委員会資料(後期)

(注) 1. 「6.その他特記事項」欄には、学生の意見がどのように反映されたかなどの事項を記載すること。

2. 「7.根拠資料」は、本調査票と併せて提出(1部)願います。